

## 復活徹夜祭の説教

金 大烈 神父 2010年4月3日(土)

### 《復活の心 ~開けた心~》

ご復活おめでとうございます。皆様もご復活なさったでしょうか。

この席で皆様に感謝申し上げたいことがあります。それは、四旬節の間にたくさんの方々が、2年前とそして昨年とも、全く違う姿を見せてくださったことです。それを見て、「今年はたくさんの方々が復活されるのだろう。」と思いました。『十字架の道行』を歩む方がよくみえ、一人で来て口ザリオを捧げる方も何人もいらっしゃいました。また聖木曜日の夜には、仮祭壇の前で夜通し祈られる方もいらっしゃいました。そして何よりも、大勢の方が赦しの秘跡を受けられました。実際には、「日曜日は忙しいので、『赦しの秘跡』は平日のミサの30分前にしてください。」とお願いをしました。それにもかかわらず、朝でも昼でも夜でも自分勝手な時間に(笑)赦しの秘跡を頼まれ、しかし私としてはそれが嬉しくて仕方なく、何回も階段を降りて赦しの部屋に入りました。

さあ皆様、昨年と同じことを申し上げたのですが、イエス様は復活されました。しかし、まだ十字架につけられたままです。ということは、“私たちの復活の生き方は、この十字架と関係なしには絶対にできない”ということです。そして復活の生き方というのは、これから毎日毎日少しずつ、続けていくものなのです。私たちは、いつか神様から呼びかけられて、復活させられるでしょう。それまでに、私たちは毎日練習をしながら、少しずつ復活の体験をしなければならないのだと思います。だから私たちの信仰は、実際に死ぬ時まで終わりはありません。

たぶんこの四旬節の間、個人的にも家族的にも、いろいろな難しさにぶつかった方が結構いらっしゃったと思います。現実にそういう話を耳にしました。そんなとき、皆様は誰に頼ったのでしょうか。もしイエス様に頼ったのなら、きっとその問題を無事に乗り越えられたと私は確信します。皆様、これからも毎日が復活の生き方になるように頑張りましょう。

物を買うときに、先に物を受け取って後からお金を返す買い方を「掛買い」と言いますね。昔は小さい店がたくさんあったので、「掛買い」のできる店が結構ありました。今は小さい店が少なくなり、主人1人で経営する店はほとんど見られなくなりました。そのため「掛買い」ができなくなりましたね。

ある人が買い物に行き、店の主人に「掛買いをお願いします」と頼みました。しかし店の主人は、「お金がないのならば、お金ができてから来てください。」と断りました。理由を聞くと「お断りすれば、あなたはつらい思いをするし、私のことを冷たいと思うかもしれません。しかしその感情に負けてあなたに代金を貸したとして、あなたが返さなかった時に損をするのは私です。」と答えました。さあ、この店の主人は情けがあるのでしょうか、ないのでしょうか。“ない”ですよね。これは、情けないやり方です。では、皆様が店の主人ならばどうしますか。「後払いしますから、物だけ先にください。」

と言われたとき、皆様の心には真っ先にどういう思いが浮かびますか？『疑い』でしょう。本当に返してもらえるのか、気になるでしょう。そして、このような生き方をこの世の中では『知恵』と言います。「損になることをしてはいけない。だまされてはいけない。」というのがこの世の論理です。しかし、よく考えてみましょう。復活の生き方というのは『開けた心』です。『閉める心』ではなくて『開ける心』です。もし皆様が心のドアを開けておけば、いろいろな人々が入って来て、傷も受けるでしょう。時には、大きくて回復できないくらいの傷を受けるかもしれません。しかし復活の生き方というのは、自分には損になっても、痛みがあっても、傷がついても、心を開けておくことです。

この世には、閉じこもる人が増えています。若さを失って、希望も失って、部屋の中だけで何かをしようとする人々が増えています。関わりを拒む人々が、だんだん増えています。しかしそれは、絶対に福音的な、望ましい生き方ではありません。生きていても生きているとは言えません。皆様、復活とは自分のドアを開けることです。少し損になっても、世の中の計算と違って、私たちが開けておけば神様の計算、神様の秤によって、いつか復活の体験がはっきりできると私は信じます。結局大切なのは、『関わり』です。復活の体験というのは、いろいろな人々と福音的な交わりをすることです。

もう一度振り返ってみましょう。自分に与えられているいろいろな関わりの中で、どのくらい心を開けて、人々が入れるように配慮してきたでしょうか。いつも被害意識を持って疑っていなかったでしょうか。相手が入ろうとしても、「今は忙しいから」「今は他の用事があるから」と適当な言い訳をしてその人を拒んでいなかったでしょうか。私を含めて全ての人が、そういう心を持っていると思います。なぜならば、関わりにも好みがあるからです。しかし私たちは、傷を受ける可能性があっても、だまされる可能性があっても、神様の子として関わりを持たなければなりません。先ずこの教会の家族から始めて、「私の行いによってその人が福音化されるかもしれない」という使命感を持って、関わる生き方をしなければなりません。少し面倒に思うこともあるかもしれませんが、しかしこれは、神様が私たちに約束された復活を前もって体験するために、しなければならぬことです。皆様、よろしくお願いします。

今年は、いろいろな希望が見えます。それは皆様の心に見つけられる希望です。明日から、「自分の行いによって、人々が天国にも地獄にも行ける」という意識を持ちましょう。そのような意識を持つことが、何よりもまず自分を幸せにすると私は確信します。

この説教の後には洗礼式のわけなのですが、この教会では洗礼を受ける方が1人もいません。そこで、聖水を作る儀式と、各自が洗礼を受けたときに神様に約束したことの更新だけを行います。

この場を借りて、皆様にもう一度思い出していただきたいことがあります。それは、一月一日の元旦ミサで、「今年は、1人が1人を宣教しましょう。」と皆様をお願いしたことです。そうすれば、来年の復活徹夜祭のこのミサには、100人以上の人々が洗礼を受けられると思います。皆様、頑張りましょう。皆様が心を開けておけば必ずできます。閉めているからできないのです。疑っているからできないのです。やってみましょう。皆様のその手、罪をたくさん犯した手が、誰かを導く手にもな

れることを信じてください。この復活祭の場を借りてお願いします。

ありがとうございました。